

第 13 回高知市総合教育会議 議事録（概要版）

1 日 時 令和 3 年 1 月 21 日（木）

開会：午後 2 時 00 分 閉会：午後 4 時 00 分

2 開催場所 オータピア高知図書館 4 階 ホール

3 出席者

（構成員）

高知市長

岡崎 誠也

高知市教育委員会 教育長

山本 正篤

委 員

谷 智子

委 員

西森 やよい

委 員

野並 誠二

委 員

森田 美佐

（市長事務部局）

高知市副市長

中澤 慎二

高知市副市長

松島 研

総務部参事政策企画課長事務取扱

西成 英丈

（教育委員会事務局）

理事

貞廣 岳士

教育次長

弘瀬 健一郎

教育政策課長

島内 裕史

教育政策課総務担当係長

神岡 純子

学校教育課長

溝渕 隆彦

学校教育課教育企画監

平井 千加子

学校教育課副参事

西田 尚弘

教育環境支援課参事教育環境支援課長事務取扱

岩原 圭祐

教育環境支援課学校 I C T 担当副参事

和田 広信

人権・子ども支援課長

山中 浩介

人権・子ども支援課生徒指導対策監

中井 昭秀

図書館・科学館担当参事（兼）市民図書館長

森岡 眞秋

図書館・科学館課長

高石 敏子

教育研究所長

近森 夏彦

教育研究所副所長

吉本 恭子

- 4 議 題 (1) 第2期高知市教育振興基本計画（案）についての報告
(2) （仮称）「オーテピア高知図書館サービス計画」（第2期）策定について

5 議事の経過

- 第2期高知市教育振興基本計画（案）について、教育委員会事務局から【資料1】【資料2】【資料3】に沿って説明

● 議論

（西森委員）

まず、【資料2】の28ページに「主体的・対話的で深い学びの実現」とあるが、この「学び」とは具体的にどのような行為を指しているのか。「学び」には探求する技術が大変重要である。人に聞いたりインターネットで調べたりするだけではない、適切な文献を選び出し参照する等の「学びの技法」を習得しなければ、学年が上がるにつれ、新しい知識を得ることができなくなると思う。

次に、【資料2】の45ページの「学習習慣確立の推進」について、昨年の一斉休校時には、子どもたちが家庭学習で文献を参照したいと考えても、オーテピア高知図書館は休館しており図書を借りることができないことがあったと思うが、再度同様の事態となった場合の対応についてお聞きしたい。

最後に、計画案における「子供」の表記について、行政組織内で統一しても良いのではないか。計画案では「子供」で統一されているが、例えば高知市の組織名では「こども未来部」「こども育成課」等がある。

（学校教育課 平井教育企画監）

子どもたちが主体的に何かを学びたいと考え、教員がその課題に応じた調べ方や活動の仕方を支援しながら共に対話的に学びを進め、そうして学んだ知識がつながりあい、深い学びとなる。そのような授業を続けることで、子どもたちは新しい知識を習得する達成感を感じ、その達成感がまた次の学びの原動力になる。

こうした授業を通じて「学び方」を身に着けることもできると考えており、計画案にはそのような意図で「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業を改善していくことを記載している。

（図書館・科学館課 森岡図書館・科学館担当参事・市民図書館長）

緊急事態宣言下における図書の貸出については、先進事例について研究を進めている。今後同様の事態になった場合は、予約に限定した貸出や貸出のため時間制限を設けて開館する等、何らかの方法で図書の貸出を継続したい。

(学校教育課 平井教育企画監)

計画案の「子供」の表記については、文部科学省による学習指導要領の表記に合わせ、教育委員会内で統一したものである。

(岡崎市長)

組織名については様々な議論があったが、最終的に分かりやすさと未来に夢があるイメージを大事にし、柔らかさを強調してひらがなと漢字を組み合わせた。市民への印象を重要視したため、行政文書の表記と異なる部分もある。

学びの方法についてはＩＣＴ環境とも関係するので、タブレット端末の配付状況と今後のスケジュール及び端末の持ち帰りについて事務局から説明をお願いする。

(教育環境支援課 岩原参事教育環境支援課長事務取扱)

現在調達が完了している小学校４年生から中学校３年生までの約 14,000 台のタブレット端末については、全て配付が完了し、動作確認やネットワーク整備を順次進めている。令和３年３月末までに、タブレット端末をネットワークにつなぎ、実際に使用できるようにする予定である。また、小学校１，２，３年生へ配付する約 8,000 台については、令和３年６月頃までに調達を完了する予定である。

タブレット端末の持ち帰りについては、Ｗｉ－Ｆｉ環境がない家庭もあるため、ルーターの貸出等も含めてより適切な方法を検討中である。

(岡崎市長)

各教室のＷｉ－Ｆｉ環境の整備は令和３年３月末で終了する予定か。

(教育環境支援課 岩原参事教育環境支援課長事務取扱)

ネットワークの工事は令和３年３月末に終了する予定である。

(谷委員)

【資料２】の 45 ページに「新型コロナウイルス感染症等に関する人権教育の充実」と記載されているが、ここに「新型コロナウイルス感染症」という固有名詞を用いた意図を教えていただきたい。他の箇所では「感染症」と記載されている。

また、【資料２】３ページの教育振興基本計画の５つの基本目標とＳＤＧｓのゴールとの対応表において、「ゴール１ 貧困をなくそう」が「基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域との協働による教育力の向上」にだけ対応していない理由は何か。コロナ禍で子どもの貧困問題が深刻化しており、本市においても学校・家庭・地域の連携した支援が必須であると思う。基本目標Ⅳにだけ対応していないことには違和感がある。

(学校教育課 平井教育企画監)

本計画案には新型コロナウイルス感染症をきっかけとして、検査陽性者に対する差別が生じないように取り組んでいくことを書き込んだため、固有名詞を用いていた。今後を見据えると新型コロナウイルス感染症に限った話ではないため、削除する方向で検討したい。

教育振興基本計画の基本目標とSDGsのゴールとの対応表については、施策や事業ベースで考えていたため、ゴール1を基本目標Ⅳには対応させていなかったが、ご指摘のとおり基本目標Ⅳにおいて、地域との協働のもと子どもたちに生きる力を育むということは、子どもの貧困を防ぐ取組ともつながるので、ゴール1の位置付けを改めて検討したい。

(岡崎市長)

コロナ禍で収入減となっている方が多く、貧困も拡大していると認識している。高知市社会福祉協議会の生活福祉資金特例貸付や住宅確保給付金の申込数も多くなっているが、貸付期間終了後の償還のことも考慮すると、現時点を乗り切れば良いということだけでなく、先のことを見据えて対応していかなければならない。

(森田委員)

【資料2】3ページの対応表について、「ゴール5 ジェンダー平等を実現しよう」は基本目標Ⅱのみに対応しているが、これでは基本目標Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴではジェンダー平等に取り組まないように見えてしまう。

基本目標Ⅱは性の多様性の尊重と関係しており、それ自体は非常に重要である。高知市でもパートナーシップ登録制度が開始となり、今後はパートナーのもとで育った子どもが増えることも考えられるし、身近な事例では女子生徒の制服をスカートに限定しないという動きもある。

しかし、例えば基本目標Ⅰにおいても、性別にとらわれない職業選択は子どもたちが夢や志を持って自分らしい生き方を実現するために重要であるし、基本目標Ⅲでは理系分野における女性の少なさや、基本目標Ⅴでは学校の女性教員の比率などについて考える必要があり、どの基本目標でもジェンダー平等に関わる部分がある。

現在の対応表では対応していない項目では取組を行わないという誤解を誘発するため、全てが関連しているが特別関係するものを示しているということが分かるように表現方法を検討していただきたい。

(西成総務部参事政策企画課長事務取扱)

現在策定中の高知市総合計画後期基本計画では、施策とSDGsのゴール及びゴールより更に具体的な達成目標であるターゲットの対応について示しており、施策内には、教育振興基本計画と関連する施策もいくつかある。施策だけでなく、どのような取組がどのゴールやターゲットに対応しているかについても対応表で明らかにしている。

(岡崎市長)

SDGs はゴール同士の内容を掘り下げると重複して対応すべきものもあり、対応表を作成する場合には悩ましい部分があると思う。ゴールの抜き出し方や振付け方は今後検討していただきたい。

(山本教育長)

制服の見直しを実施している学校では、男性用・女性用のそれぞれに共通したジャケットがあり、下をスカートでもスラックスでも自由に組み合わせることができる形を検討しているとのことであった。新しく制服を選ぶ学校だけでなく、既存の制服がある学校についても生徒が自分に合ったものを自分で選べるよう、教育委員会と各学校で協議を重ねていきたい。

(岡崎市長)

今後は様々な生き方や多様性を互いに認め合う社会が求められており、意識の転換が必要である。実際の教育現場に落とし込むには時間がかかるかもしれないが、身近なところから転換していかなければならない。

(野並委員)

【資料 2】の 17 ページにある防災教育の充実について、高知市の子どもたちは災害に直面しなければならない可能性が高い世代である。そのため、防災教育においてもより経験的な、例えば火を起こしたりテントを張ったりする「体験」を多く積み、災害に直面した際にも恐れず行動ができるような教育を行っていただきたい。

また、【資料 2】の 27 ページには食に関する指導について記載されているが、高知は食材に恵まれているので、それをより強調し、高知の特色を出した方が良いのではないか。給食に地元食材を取り入れるということだけではなく、家庭科や社会科等の様々な分野と組み合わせた取組を行っていただきたい。

【資料 2】の 36 ページでは地域との協働について記載されているが、現在産業界でも様々な分野の業界が互いにつながり合うことで価値を高め合うという動きがあるので、様々な職種と協働した教育があると良い。

(学校教育課 平井教育企画監)

防災教育については、現在多くの学校で心肺蘇生法講習や南海トラフ地震で想定される強い揺れを体験する授業を実施している。また、地域防災拠点として地域との連携の上で、体験的でより深い防災教育を実施している学校もあるので、そのような先進事例を参考にしながら取組を全体に広げていきたい。

(教育環境支援課 岩原参事教育環境支援課長事務取扱)

食育に関して、小学校1年生から中学校3年生までの学校給食の完全実施に伴い、それぞれの学年の中で食育として学ぶべき内容の指導方法についてまとめ、各学校に配付している。高知らしさについては、年に1回程度皿鉢料理等を給食の範囲で提供し、子どもたちに食べてもらうという食育の体験学習を調理員の協力のもと実施している。

(山本教育長)

職業と教育の連携については、こうち志議会やキャリアパスポートを活用したキャリア教育等の取組を通して、地域の方や様々な職業の方と触れ合いながら、自分はどのように課題を解決していけば良いのか考える力を養っている。今後もこのような取組を継続しながら、取組方法についても研究を深めていきたい。

(岡崎市長)

防災教育に関して、例えば炊飯器がなければご飯は炊けないと思っている子どももいるので、体験学習をするということは非常に重要である。三里小学校では地域の方と連携し防災キャンプを実施しているので、そのような動きが全体に広まれば良い。

(西森委員)

【資料2】3ページのSDGsに関して、SDGsの読み仮名や、SDGsが何の言葉の略なのかなど、より詳細な説明が必要である。また、SDGsのゴールは1から17までであるが、対応表に示されているのは一部のゴールだけであるので、その説明についても追加していただきたい。

- (仮称)オーテピア高知図書館サービス計画(第2期)について、教育委員会事務局から【資料4】に沿って説明

(西森委員)

来館者の年齢構成が分かれば教えていただきたい。

また、資料の購入費は不足していないか。図書館の魅力とは大抵の資料が揃うということにあると思うが、専門書ほど購入金額が高く需要が少ないという傾向がある。どこまでの需要にどの程度応えられているのかという意味で、資料購入費が足りているのか教えていただきたい。

最後に、オーテピア高知図書館では勉強している学生が多いが、学習意欲がある学生の受け皿をどのように用意するのか。学習室以外に、閲覧スペースや共有スペースで勉強している学生も多く見受けられるが、学習意欲が高いことは喜ばしいことである一方、閲覧スペース等での勉強は困る行為でもある。勉強したいという喜ばしい動機に基づく行為を学習室以外にどこでどのように受け止めるのか、考えをお聞きしたい。

(図書館科学館課 森岡図書館・科学館担当参事・市民図書館長)

年齢構成について、利用カードの登録者数で言うと、児童の場合は0歳から6歳が1.9%、7歳から9歳が4.8%、10歳から12歳が6.3%である。13歳以上の一般利用者では、一番多い世代が40歳から49歳で16.2%、次いで30歳から39歳が13%、50代、60代、70代がそれぞれ11%程度、20代は5%程度となっている。

資料費については、現在県では1億100万円、市では8,200万円の予算を計上しており、この予算は全国の図書館でも多い方ではあるが、発行されている本は半分購入できているかどうかというところである。希望がある場合は購入の要望を上げていただきたい。

勉強場所の受け入れについては、オーテピア高知図書館4階の学習室の利用を基本としているが、土日は学生の来館者が増えるため、普段は開放していない部屋を開放し、学習室として利用できるようにしている。それでも来館者が多いときには、場所がなく帰っていく方もいる。

(オーテピア高知図書館 山崎県立図書館長)

資料費については、県と市で役割分担がある。一般的な資料は市民の利用が多いので市の予算で購入することが多く、様々な分野の専門書等は課題解決のための資料として県の予算で購入することが多い。

また、勉強している学生の居場所については、2階や3階の学習室でないところでは、閲覧コーナーとの区別をしっかりとつけ、勉強をする方と図書を閲覧する方が上手く共存できる形をとりたい。学生の頃から図書館の利用が生活サイクルに組み込まれているのは素晴らしいことなので、引き続き学生を応援していきたい。

(森田委員)

先ほどの説明で20代の利用カード登録者数が少ないとの話があった。その20代に、読書や科学の面白さをいかに伝えるか、いかに興味を引き付けるかということを考えると、学生のうちからその面白さを伝えられるよう、学校と連携することが重要である。

現在コロナ禍ということもあり、水族館や博物館がオンラインで子どもたちに向けた動画を配信している。オーテピア高知図書館でも、例えば理科の授業に関係する科学実験など学校の授業との連携した動画配信や、社会科見学にオーテピア高知図書館を取り入れ、小学生のうちに必ず1回は訪れる機会を設ける等の取組があっても良いのではないかな。

(野並委員)

先日、新聞にオーテピア高知図書館の本の福袋の取組についての記事が掲載されていた。本のタイトルを隠した上で、本の一文を引用した札を頼りに本を選び、貸出しを受けるといったものであったが、これは想像力をかき立てる素晴らしい企画だと思った。同

時に、企画の立案及び実施に対して応援したくなる気持ちが生じ、そのような気持ちを受け止める受け皿として、クラウドファンディング等があれば良いと感じた。

企画に対する応援だけではなく、例えばコロナ禍において図書館に行くことが難しく、学習の継続が困難となっている方に届くようなサービスを実施するため等、様々な応援をしたいという気持ちの受け皿となるものがあると良い。

(岡崎市長)

絶版になった本や全集セットになっていて高額な専門書を、蔵書として購入するためのクラウドファンディング等も考えられるので、一度ご検討いただきたい。

(谷委員)

オーテピア高知図書館を利用すると、窓口での対応が非常に良いと感じる。先ほど野並委員からの話にもあったが、自由な発想で様々な企画が立案できるということは、オーテピア高知図書館に携わっている方がいきいきと、のびのびと働いていることの表れなのだと思う。今後も高知の人に愛され楽しめる図書館であってほしいし、その思いは県も市も同じであっていただきたい。

小中学生のオーテピア高知図書館の利用について、それぞれの学校にも図書館があるが、この学校図書館との連携はどのようになっているのか。また中心市街地の活性化への貢献度についても教えていただきたい。

(図書館科学館課 森岡図書館・科学館担当参事・市民図書館長)

各学校図書館には図書館支援員が配属されており、年1回オーテピア高知図書館からの情報提供の場を設けている。司書、図書館支援員ともにベテランの方と新人の方がおり、情報交換の場にもなっている。

また、中心市街地活性化への寄与については、開館当初の新聞にオーテピア高知図書館の効果として通行量が46%増加したとの記事が掲載されている。帯屋町商店街で開催しているイベントにもブース出展する等の協力をしている。今後も中心市街地とオーテピア高知図書館が共に発展していくように協働していきたい。

(岡崎市長)

オーテピア高知図書館は、構想時から0歳から100歳までが利用できる公共施設を目指し、社会インフラを担う施設をコンセプトとしている。図書館は利用料が無料であり、個人の環境に左右されず学習機会を等しく提供してくれる。高知の教育・研究の機会を担う施設となっていきたい。また、図書館はユーザーが育てる側面も大きいので、利用者の声に耳を傾ける努力は継続していかなければならない。

(山本教育長)

オーテピア高知図書館は第1期のオーテピア高知図書館サービス計画の目標を前倒しで達成するなど、県市連携のもと順調に推移している。今後も関係団体と連携し、課題解決の支援をはじめとした様々な図書館サービスを実施し、この状況を継続していきたい。また、本日いただいた様々なご意見や新たなご提案を受け、厳しい財政状況の中予算を確保するだけでなく、応援する気持ちを受け入れることができるシステムなど、様々な取組を考えていきたい。

(岡崎市長)

子どもたちにより良い学びの場を提供するため、教育委員会や学校現場と連携し、オーテピア高知図書館サービスの更なる発展・充実に取り組んでいきたい。

● 閉会